

審査の結果の要旨

氏名 張 玲

論文題目 屋外空間における中国都市居住高齢者の居場所に関する研究
-長春市の既成市街地及び新たな計画地における高齢者の滞留行動を事例として-

本論文は、急激な高齢化社会に直面する中国の都市部において、高齢者のニーズに対応する屋外空間として滞留の出来る場所性について論じたものである。長春市の既成市街地及び新たな計画地に住む高齢者を対象として余暇時間に屋外滞留行動が行われる典型的な場所の特性、場所の利用頻度、滞留行動、コミュニケーション誘発の空間要素の分析を通して、高齢者の生活の質を確保する屋外空間計画の知見を得ることを目的としている。

本論文は7つの章で構成される。序章では、研究の背景および理論的背景についてまとめ、研究の目的、研究の位置づけ、論文構成、分析方法についてまとめている。また高齢者に住み慣れた地域に継続して暮らすことを促す「居家養老服務」という政策を整理し、高齢者と他者のコミュニケーションおよび社会的コンタクトを促進するため、屋外の居場所としてどんな空間が好まれているか、その空間特質及び成立させている要素を論じている。

第2章では、調査地概要およびその選択理由を整理している。調査は長春市の「居家養老服務」政策を実施しているユニットであり中国の街道或は居民委員会の最小の行政区分を示す「社区」を三つ選定して行った。都市中心部に位置する二つの既成市街地型（「牡丹社区」と「徳昌社区」）と、都市中心部から外れた地域に位置する計画地型（「明珠社区」）を選定し、その概要を整理すると共に、予備観察調査と各調査地の高齢者へのアンケート調査についてまとめている。

第3章から第5章では、三つの「社区」において定点観察調査を行った結果の分析・考察を行う。第3章では既成市街地の「牡丹社区」を対象に、隣接して計画された「近隣公園」の利用実態を分析した。「牡丹社区」では各住棟の周りに塀があり、住棟間のオープンスペースで高齢者の滞留行動は観察されない。また「近隣公園」でも高齢者の滞留行動を観察し、運動器具に座ったまま他者と交流するといった設計意図と異なる使われ方の存在を明らかにした。

第4章では既成市街地の「徳昌社区」において、計画されていない建物間のオープンスペースを対象に分析を行った。その中で高齢者の滞留行動が、主に住棟の入口や、壁沿い、緑地沿いに多く観察されることがわかった。また古い家具・折りたたみ椅子の持ち込み・利用といった「空間への自発的関与」および緑、石などの「装置的要素の活用」が観察された。観察された様々な

「自発的関与」から、既成市街地の屋外空間では高齢者が高い帰属感を持っていることを明らかにし、また季節による違いなどの考察も行っている。

第5章では計画的に設計された「明珠社区」において、集団空間の利用実態を観察・分析した。「明珠社区」は計画的な豊かな屋外空間を有するが、その利用状況及び滞留行動における居方、場所の分布、時間帯の利用状況の分析を行っている。その中で、運動器具やベンチ、テーブル等「計画的装置」がある空間は季節によって利用率に差があり、広場的空間が季節に関係なくよく利用される一方、美しい景色の親水空間では季節にかかわらず滞留行動が生じにくいことを明らかにした。

第6章では、第3章から第5章の調査を元に、高齢者の日常生活に適する居場所としての屋外空間の特質を、時間的要素（行動の規則性、滞留行動の習慣性、季節別の場の選択性）、空間的要素（空間的階層性、場の許容性、装置的要素の活用および空間への自発的関与）、人的要素（構成メンバー、個人行動、集団行動、社会的コンタクトの考察）およびその他（微気候の影響、管理および運営）にまとめている。

第7章では、以上の考察をまとめ、今後の都市に居住する高齢者に適合する屋外空間のあり方について整理した。本研究のケーススタディから得られた知見に基づき、中国の高齢者の屋外滞留行動に適する都市空間の計画について提言を試みている。

以上のように本論文は、今後より急速な高齢化が進む中国を対象に、具体的な住宅地において高齢者の行動特性に関する詳細な調査を行い、行動とそれをもたらす空間構成の関係性について明らかにしたことは、居住空間の計画上大きな意義がある。同時に高齢者の行動だけでなく、古い住宅地における居住者同士の人間関係の重要性や帰属意識といった心理的要因、季節による利用率の違い、社会との接点、気候といった無形の環境形成要因にまで考察を行っている点に独自性がある。その上で今後の居住地の屋外空間計画に対して重要な示唆を与え、新しい可能性を示したことは、建築の意匠分野の研究に大きな寄与をなしたものと判断できる。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。